

## 1. 第2回市民ワークショップの概要

### (1) 第2回ワークショップの開催概要

日 時：平成30年11月29日（木）15時～17時
会 場：甲府市役所本庁舎9階研修室2
参加者：17人

### (2) 第2回ワークショップの狙いと進め方

- 第2回ワークショップは、第1回ワークショップで出た「甲府市に暮らす皆さまが抱く健康に関する願い」「甲府市が持つ健康に関する資源や強み」「今後、甲府市が健康都市になるために必要な取り組み」に関する意見を確認いただいた上で、健康都市宣言をまとめていくに当たり、実際に反映したいキーワードを集約していくことを狙いとして開催しました。
- また、第2回「健康都市こうふ」都市宣言策定委員会において、各委員から出された意見のポイントを説明しました。
- 協議の前半では3グループに分かれていただき、前回皆さまにお書きいただいた付箋紙を図化した資料や、グループごとに似た意見を分類し、言葉の言い換えや抽象化などを行っている資料のほか、これを基に作成したグループ別の都市宣言イメージを確認しました。その上で、最終的なゴールである、グループの垣根を超えて意見を一つにまとめた都市宣言を実際に作成していくに当たり、皆さまからいただいたすべての意見を集約・分類した資料を確認し、都市宣言に盛り込むキーワードについて協議の上、発表していただきました。
- 後半は全体での協議とし、引き続き、都市宣言に盛り込むキーワードについて意見をいただきました。



## 2. グループワークの結果概要

### 前半

#### 【人の健康づくりグループ】

##### 健康都市こうふ基本構想における視点

○体力・運動機能の向上

子ども層

○データを活用した健康の増進

若者・壮年層

○受診率向上などの予防の強化

シニア層

##### グループワークの協議概要

- ◇ 「ひとの健康づくりグループ」では、健康のための資源として大きく「人と人とのつながり」と「天然資源」を重要な要素として挙げ、それらを中心に議論を進めました。
- ◇ 「人と人とのつながりを大切に」することは健康にとって基礎的なものであることから、宣言文にはキーワードとして必ず入れたいという意見が出ました。
- ◇ 甲府らしい人と人とのつながりの方法である互助組織「無尽」については、最近はお金の拠出をせずに単なる飲み会やサークルの意味合いで使われることや、無尽にあまり参加していないという声が聞かれました。ただ、内容は変わっても人と人とのつながりを維持する機能としては、今でも重要な役割を果たしており、健康に資する重要な伝統・文化・習慣として宣言文にいれるべきという意見が挙がりました。
- ◇ 天然資源については、甲府市民にとっては富士山よりも、おいしい天然水を育む昇仙峡の方がより身近であるため、宣言文では昇仙峡を強調するべきではないかという意見が出ました。
- ◇ 温泉、フルーツ、ミネラル豊富な水、栄養ある食物など、多くの特産品をすべて宣言文に記載するより「豊富な天然資源」とまとめた方がわかりやすいのではとの意見がありました。
- ◇ また、これら「人と人とのつながり」と「豊富な天然資源」を活用することに加え、健康の取り組みに関しては、個人が最も基礎的な単位となることから、適切な食事を心がけ、自分の健康は自分で維持することが重要との意見が出ました。
- ◇ さらに、自分の健康を自分で維持するためには、体力づくりの習慣化や、継続的に取り組みができる場が必要だという意見もありました。

## 【地域の健康づくりグループ】

### 健康都市こうふ基本構想における視点

○ふれあい・絆の醸成

家庭・学校

○健康活動の活発化

職域・働く場

○地域社会への参画・貢献

市民活動の場

### グループワークの協議概要

- ◇ 他市の宣言文を参考にすると、宣言文の中にはあまり多くの項目を入れることは適当ではなく、4～5項目が適当ではないかという意見が出ました。地域の健康づくりに関しては、宣言文の1項目で取り上げられれば良いのではないかという指摘がありました。
- ◇ 宣言文は、分かりやすい言葉を使った方が望ましく、例えば「多様な世代や様々な人」という言葉は、「子どもから大人まで」という言葉に置き換えた方が分かりやすいという意見が出ました。
- ◇ 宣言文は、健康都市宣言が出された後の短期間だけ使われるものではなく、比較的長いスパンで使われるということを考えた表現が良いのではないかという指摘がありました。また、宣言文は子どもから大人までが親しめる内容であるのが望ましく、甲府のまちが連想できるものが良いのではないかという意見が出ました。「無尽」は子どもが親しめる内容ではないという主張もありました。
- ◇ 「地域の人々の仲間意識を高める」という言葉が、グループとしてのキーワードであると確認されました。「地域の人」の中には子どもも含まれ、「子ども」に含まれるのは中学生までであるという意見が出ました。
- ◇ 「仲間意識を高める」ことについては、仲間を誘って外出する機会が増えることや、健康に関する情報交換を行うことにより、健康増進に結びつくのではないかという主張がありました。
- ◇ 地域の人々が集まる場所として、具体的には公民館が挙げられ、子どもクラブなどによる活用もあるというコメントがありました。また、人口当たりの山梨県の公民館の数は全国一であるとの指摘がありました。
- ◇ 地域の人々が集まるには、祭りなどのイベントの活用も有効であり、子どもが参加しやすいようにするためには、大人が考える必要があるという意見が出ました。

## 【まちの健康づくりグループ】

### 健康都市こうふ基本構想における視点

○健康を育てるまち

くらしの機能

○健康を守るまち

くらしの環境

○健康をつなぐまち

くらしの資源

### グループワークの協議概要

- ◇ 「まちの健康づくりグループ」では、改めて、「まちの健康とは何か？」という点につき議論しました。その結果、基本は甲府市民の健康づくりであり、市民一人ひとりの健康づくりを支援するため甲府市というまちレベルで何ができるか、という視点を決めました。
- ◇ 次に、「まちの健康づくりグループ」として健康都市宣言に盛り込みたい、重要な言葉について話し合いました。まず一つ目は、『市民一人ひとりの健康づくりを応援するまち』です。
- ◇ これには、甲府市の中核市移行と甲府市健康支援センターの整備を契機として、全市民が自身の医療データ（仮称：こうふの医療または健康マイデータ）を活用しやすい環境をつくろうというものです。
- ◇ 具体的には、甲府市健康支援センターを拠点として、測定機会の提供、測定機器の充実、マイデータアプリの活用促進などを図るとともに、相談体制も併せて充実させることによって、市民一人ひとりの健康づくりを支援する仕組みを整備するものです。
- ◇ また、健康都市宣言に盛り込みたい重要な言葉の二つ目は、『公園など健康づくりの場の整備・活用』です。甲府市には小瀬スポーツ公園など、比較的規模が大きく拠点性ある公園・緑地や、健康づくりに活用できる里山などの資源があります。
- ◇ これらを「公園など」と表現するとともに、「健康づくりの場」として位置づけます。なお、ここで言う「整備・活用」は新規建設を示すものではなく、既存施設のソフト面からの充実や機能向上、市民の使用促進などを指します。
- ◇ この他、「市民一人ひとり」という語の重複や、他市宣言等で多用される傾向にあると感じられる語（例えば「絆」）の使用には注意した方がよい、という意見が交わされました。

## 後半

### 【全体意見交換】

#### 全体意見交換の協議概要

- ◇ 「人の健康づくりグループ」からの発表に関し、「人と人とのつながりを大切にしながら」「自分の健康のことは自分で」という言葉を位置付けたいという意見がありました。この他、「適切な食事」「体力づくりの習慣化」という意見もありました。  
また（☆をとる）、受け止め方には色々あるが、「無尽」は地域独特の文化であり大切にされた方がよい、という意見でした。この他、「特産品」の例示や、富士山より昇仙峡の方が身近、美味しい水道水、それらを総合し「豊富な天然資源」と表現すべき、といった議論がなされました。
- ◇ 「地域の健康づくりグループ」からの発表に関し、「地域の人々の仲間意識を高める」ことが基本となる、との意見がありました。「無尽」については、「地域の人々の仲間意識を高める」に含まれるとする意見もありました。  
また（☆をとる）、この他、「子どもから大人までが地域で集える場」が必要だという意見がありました。この「場」は、子どもから大人まで多世代の地域住民が参画しやすい「機会」という意味のほか、公民館などの「場所」という意味があるという意見でした。
- ◇ 「まちの健康づくりグループ」からの発表に関し、「市民一人ひとりの健康づくりを応援するまち」として、全市民が自身の医療データ（仮称：こうふの医療または健康マイデータ）を活用しやすい環境をつくろうという点が強調されました。  
また（☆をとる）、「公園など健康づくりの場の整備・活用」についても意見が交わされましたが、これらの整備主体は必ずしも行政である必要はなく、「公共・公益的な空間」として広く捉え、民間企業なども取り組みの主体になりうる、といった議論となりました。
- ◇ 以上を踏まえ、別紙の通り宣言文に活用したいキーワードなどを取りまとめました。